

同窓会報



鳥羽商船同窓会

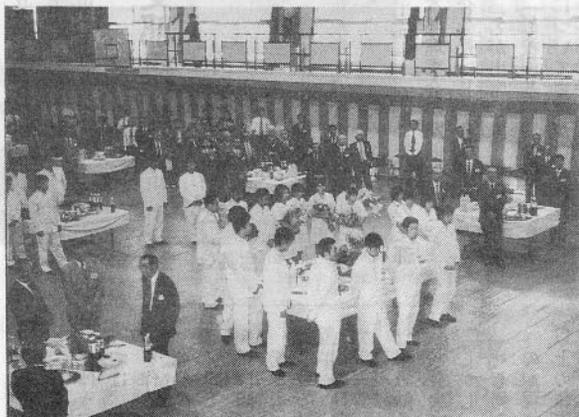
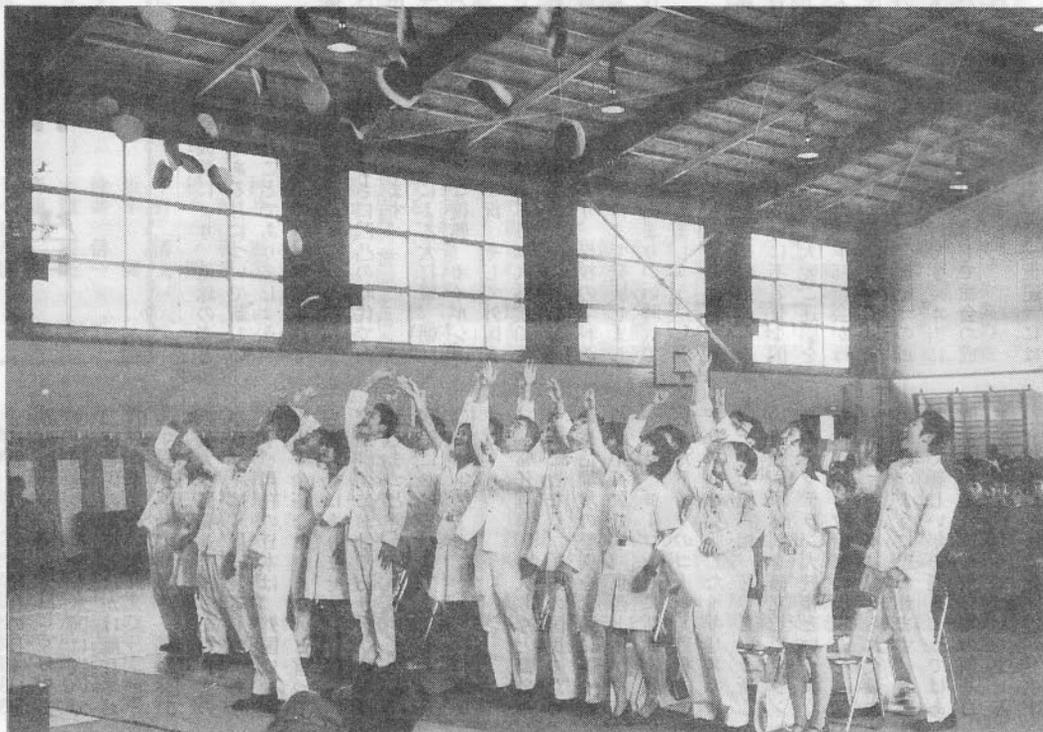
三重県鳥羽市池上町1番1号

郵便番号 517-8501

TEL 代表 鳥羽(0599)25-8000

FAX 鳥羽(0599)25-8016

振替番号 00850-6-846



第29回 商船学科卒業式

本部報告

会長挨拶

会長 落合 弘明

「二〇世紀」もいよいよあと僅かとなりました。会員の皆様にはお元気に活躍のことに推察申し上げます。新しい「二一世紀」を迎えるに際し、皆様それぞれと思いがあふれることと存じます。

「二〇世紀」とはどんな時代であったか振り返って見ますと、「戦争や民族対立」、「人類による環境破壊」、「人口の爆発的增加」、「人類による地球見直し開始」の時代と決めつけられます。

二度に亘る世界大戦、アジア、アフリカ、中近東、中南米と世界各地における内戦あるいは民俗対立、エネルギーの無制限使用による環境悪化、開発途上国における人口の急増等は地球を破壊的状况におろかさに気付いた人類は、エネルギー使用の見直しを中心とした環境保全に気付きその対策を始めた所であります。

「二〇世紀」は人類にとって飛躍的な面も多くありました。宇宙

開発の急成長により、地球の姿とその衛星である月について新しい知見を得たことでありましょう。皆さんの多くの方が参加されてきました海運界にとつては、「二〇世紀」はまさに凹凸の時代であつたと思われまふ。

太平洋戦争による大打撃、朝鮮戦争後の急速な復興、オイルショックによる大不況、そして外国人船員の導入による日本人外航船員の急削減、開発途上国の外航海運への加入等により、母校の学科改組という大問題にまで発展しました。結果としてあまりいい時代ではなかつたと言えましよう。私個人にとりましても「二〇世紀」最後の今年の本部総会に病気のため欠席という、まことに不名誉な問題を起し、皆様方に変な迷惑をお掛け致しました。本部総会が母校で開催されるようになって以来始めての欠席が「二〇世紀」の最後の年となつたわけです。本当に残念で、病院のベッドで総会の成功を祈つておりました。

ところで来る「二一世紀」には日本にもすぐれた政治家すなわち後世に名が残るような首相の出現

が待ち望まれます。それには先ず日本の立場を見直す必要があるように思われます。現在の日本は世界の経済大国を自負しております。国連の負担金も米国に次いで二位と国の規模とはかけ離れております。

「常任理事国」入りを希望しての莫大な開発途上国へのODAのバラマキは、目に余るものがあります。現在の日本は、外国にお金を出す余裕など全くないと言つても過言ではありません。公共機関、交通機関におけるバリアフリーはおそまつと言ふほかありません。病院におけるバリアフリーすら三〇パーセント以上という状況です。

「常任理事国」入りなど高望みすることなく、国内の国民のための生活環境の整備を念頭に置く政治が不可欠です。東西ドイツを統一させ、ヨーロッパに新風を吹き込んだドイツのコール元首相、イギリス病を克服したイギリスのサッチャー元首相、EUという新しい連合国家体制を確立したフランスのミッテラン大統領というような世界的な政治家の出現こそ「二一世紀」の日本に課せられた最大の課題のように思われます。希望を以て新しい年を迎えようではありませんか。そして母校の創基百二〇周年を祝おうではありませんか。高専にも法人化問題が発生するのは時間の問題です。その意味においても母校の存在をアピール

支部長・

本部理事会

平成一二年九月二〇日(水)、商船学科卒業証書授与式終了後、佐藤修臣新校長歓迎会の式場である鳥羽国際ホテル「潮騒の間」において、平成一二年第二回の支部長・本部理事会が開催された。落合会長はじめ各支部を代表する三三名が出席して、来年挙行される「母校創基一二〇周年記念事業」について審議がなされた。

本題の審議に先立ち、落合会長が挨拶され、母校をとりまく次のような問題点が報告された。

イ 専攻科を三年以内に設置する必要があること。(注)現在国立高専五四校中、三二校に専攻科が設置され、更に今年度中に六校が認可され合計三七校となる。専攻科がない高専は、言わば「落ちこぼれ」となる可能性がある。学内に「専攻科設置委員会」が設けられ「商船系」と「工業系」の二コースの専攻科を設置する方向で検討している。

ロ 専攻科を設置するためには、教官の博士号取得を多くする必要があり、その支援(主に金銭的)を校長が同窓会に

依頼してきていること。ハ 国立大学の独立行政法人化に伴う高専の同法人化については、商船五校で「ブロック」を作る案があるが、その際高専高専が全部残存できるか疑問であり、母校が残るためには同窓会の基金を使用する必要もあること。(注)現在の国立大学の独立行政法人化への動向は、平成一六年位になる見込みであり、高専は大学の動きを見て対応するよう校長会で申し合わせている。しかし、文部省からは高専に対し何ら指示してきていないのが現状である。

以上の報告のあと、本題の「母校創基一二〇周年記念事業」について、次の点が協議された。

イ 寄付金状況及び今後の募金活動

平成一二年九月一四日までの集計で、募金者六四八名・募金五三一万四千円と大阪支部五万円で合計五三六万四千円である。(平成一二年一月一七日時点の全募金者リストを本会報に後掲)

今後の募金活動については、本部からは、本会報と二〇〇一年第一号の会報で更に募ると共に、各支部でも会員にアピールしてもらう。

そのため、支部長には寄付者名簿を配布した。

ロ 記念事業実行委員会の構成等準備作業

そのための、支部長には寄付者名簿を配布した。

ロ 記念事業実行委員会の構成等準備作業

落合会長が出席者全員に一二〇周年記念事業をどのように実施するか意見を求め、それらの意見を各支部に持ち帰って、支部会員の意見を反映した上で最終案をまとめることを提案された。

次いで会長が個人案を提案され、

○行事は、鳥羽市民が喜ぶ企画とし、合わせて母校存続が実現する企画とする。

○式典は校内で行い、祝賀会等は校外で行う。

○行事全体を学校が主体でなく、同窓会が主体となっていきたい。

(注)現在学内では、校長が委員長となる「鳥羽商船高等専門学校創基一二〇周年記念事業委員会」が設置されている。

○記念事業の為の同窓生からの募金の使途は、同窓会が主体となり、經理の明確を期したい。この点は、昭和五六年に挙行された百周年記念事業の際に、学校が主体となつて募金を使用し、様々の問題が生じたことから特に重要である。

以上の会長案に対し、出席した役員から次のような案が出された。

○ここ数年、様々の同窓会行事に対する寄付金募集が多すぎる。

○祝賀会は、一般社会人が喜ぶタレントを呼んで、派手にやるべきである。

○一二〇周年記念事業は、学校存続を世間にアピールするために行うべきで、その方針を期していた

だきたい。

○一二〇周年プラス他のテーマも盛り込んでどうか。

○一二〇周年に対して、企業への寄付は全く期待できない。

○母校が存続するために、本事業は、同窓会と学校教職員が一九と

なつて行うべきである。

以上の意見に対し、会長は一二〇周年記念事業は最後のセレモニーであり、次は一五〇周年まで事業は行わない点を強調し、他の意見については、各支部に持ち帰り各支部で協議してもらうことになった。しかしながら、各支部での意見調整も困難な面が多く、最終的には学校と本部理事で行事のタキキ台を作り、その案を各支部が協議することで意見の一致をみた。

又、記念事業実行委員長は本部理事から選出することを会長が提案され、出席者全員の賛同を得た。当日の出席者は、次の役員です。

- | | |
|-----|----------|
| 会長 | 落合 弘明 |
| 相談役 | 堤 好造 |
| 顧問 | 村井 憲次 |
| | 上野 和泉 |
| 副会長 | 根本 明 |
| | 中野 清文 |
| | 坂本 実 |
| | 待井 信一 |
| | 大垣 重夫 |
| | 斉藤 隆 |
| | 千々波 天信 |
| | 鶴田 弘 |
| 支部長 | 菱田 司(京浜) |

- | | |
|------------|-----------|
| 堀三矢之助(静岡) | 松浦 肇(名古屋) |
| 片山 勝則(四日市) | 菅原 昌男(大阪) |
| 桑嶋 収平(神戸) | 成瀬 正雄 |
| 森 良雄 | 牛場 正 |
| 小島 広志 | 中村 武史 |
| 中村 節男 | 田中 節男 |
| 世宮 利郎 | 江崎 隆夫 |
| 中村 俊輔 | 出江 幸重 |
| 江崎 修央 | 岩本 典 |
| 以上三三名 | |

佐藤修臣校長の歓迎会

落合会長の療養のため、延期となつていた新校長・佐藤修臣先生の同窓会主催による歓迎会は、平成十二年九月二〇日(水)、商船学科卒業証書授与式終了後の午後一時から、鳥羽国際ホテル「潮騒の間」で、同窓会役員三三名が出席して開催された。

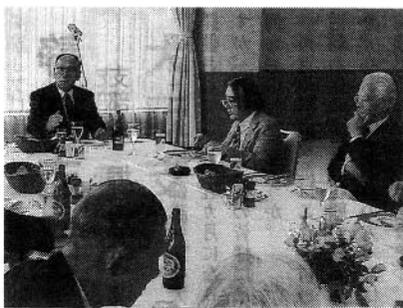
始めに落合会長が新校長歓迎の挨拶ををされ、母校発展の為に校長が甚力されるよう、また、その

為に同窓会も援助を惜しまぬこと、個人的には航海学会で旧知の間柄であることを披露された。

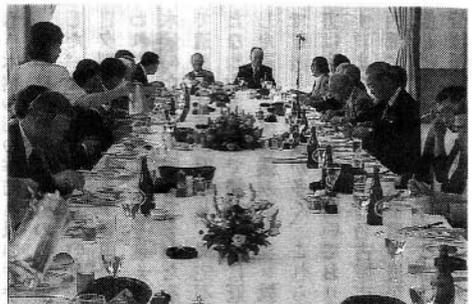
次いで佐藤校長が就任の挨拶をされ、ご自身の履歴(二〇〇〇年第一号会報の学校だよりの新任教官に記述)を述べられたあと、現在の学校の問題点として、専攻科の設置・独立行政法人化・一二〇周年記念行事を挙げ、その遂行に責任を感じておられる旨発言された。

乾杯は、上野和泉顧問の音頭で一同ビールを飲み干し、今井シェフのエビエキュリアン料理を会食しました。話題は、佐藤校長が航海訓練所出身であること、また当会場が菅島水道を一望できる景観であることから、当然のごとく海と船に集中しました。

宴半ば、斉藤副会長が校長に、出席者全員を紹介し、親交を深めました。



歓迎会 (校長左)



歓迎会一同

平成一三年度 総会のご案内

二一世紀初の同窓会総会は、平成一三年六月一〇日(日)正午から母校で開催されます。

一二〇周年記念事業(一)一ヶ月開催)を目前に控え、また新しいミレニアムを迎え、同窓会の更なる発展を期すため、できるだけ多くの会員のご出席をお願い申し上げます。

なお、歓迎会が終了して校長が退場後、一五時三〇分前、前記の支部長・本部理事会が同メンバーで開催されました。

会員の表彰

平成二年の「海の日」に、伊良湖三河湾水先人の左記会員が、海事功労者として「運輸大臣表彰」をお受けになりました。

○S26N 三本松 昇

会員一同、心からお祝い申し上げますと共に、今後のご活躍を期待します。

なお、会員の受賞に際しては、同窓会本部事務局で情報入手不能な場合もありますから、ぜひご一報下さい。

支部だより

京浜支部

支部長 菱田 司

二一世紀がまさに始まろうとしているこの年の暮れに、皆様如何お過ごしでしょうか。

月並みですが期待と、希望に燃えておられる事と思います。ぜひ願いを、かなえられるようにしたいものと思えます。

さて京浜支部も例年のごとく支部総会を、一〇月二七日に無事行う事が出来ました。

来賓には、佐藤校長初め本部より多数お出で戴き花を添えて戴きました。時流にあった、時宜を得た色々なお話を頂き、参加者一同満足いたしました。さらにヤン

グな方たちには、母校の行く末を任せられるような、頼もしさが見受けられました。また同窓の皆様

は久しぶりの再会により、談論風発となり、にぎやかで、華やかな時を過ごしました。母校の誇りと益々の発展を願いながらの、あつという間の二時間でした。

なお、懇親会参加の皆さんは五五名、来賓の方々を合計しても六〇名強となり、昨年より減少いたしました。

来年も同じ場所にて、一〇月一九日(金)に開催いたしますので、ぜひ参加くださるようお願いいたします。

懇親会参加の皆さんとは別に、京浜支部会費を約二〇〇名の方より送金頂き誠にありがとうございます。最後に京浜支部本年度会計を掲載して支部報告とします。

以上

錦浦会京浜支部会計報告

平成11年10月1日から平成12年9月30日まで

1. 収入の部	
前期繰越金	443,909円
支部総会会費 (68名)	544,000円
支部年会費 (総会時入金分)	56,000円
支部年会費 (郵便振込分)	217,000円
本部通信費	70,000円
支部長交通費補助 (2回分)	56,000円
支部総会寄付金	8,000円
収入合計	1,394,909円
2. 支出の部	
支部総会費用	533,335円
会議費 (理事会・事務会 4回)	44,271円
交通費 (東京～鳥羽 3回)	123,720円
印刷代 (封筒・総会案内)	47,040円
郵送料	81,700円
香典 (1件)	30,000円
お見舞い (1件)	10,000円
支出合計	870,066円
3. 次期繰越金	
	524,843円

上記の通りご報告申し上げます。
 錦浦会京浜支部 支部長 菱田 司
 上記報告に相違ありません。 会計監査 村越 文男

平成12年10月27日

静岡支部

支部長 堀三矢之助

平成二二年度本部総会が盛大に開催されてより早五カ月になりましたが、静岡支部会員の皆様には如何お過ごしでしょうか。

最近の静岡支部はこれと言った活動の無いままの状態が続いて居り、心ある同窓会員の方々には誠に申し訳なく思っています。

さて、二月三日には本年度静岡支部総会を忘年会も兼ね盛大にと思つて居りましたが、今のところ出席者二名、欠席者四六名(一月一五日現在)、出欠通知のリミットは一月二日です。まだまだ期待はして居りますが、後一週間どれくらい支部会員が集まるかやきもきして居るところです。往復ハガキの発信数は二七通です。ちなみに昨年の支部総会の通知は二七通、返送数四七通、住所不明二通、(八八通は返送も有りませんでした) 同窓会に関心が無いのか、仕事が忙しいのか(乗船の方も居りますが)、それともどうでも良いのか?

本部総会への出席、創基二二〇周年記念事業寄付の低調、等々静岡支部を受け持つ者として残念でなりません。支部の恥をさらけ出して先輩諸氏やご協力戴いている会員の皆様には申し訳ございません。

名古屋支部

支部長 松浦 肇

紅葉の美しい季節となりましたが、その後会員の皆様には如何お過ごしでしょうか。

この会報がお手元に届く頃は、もう木枯らしの季節と思えます。今年全国的に災害の多い年でした。この東海地方も一〇月一日夕刻に未曾有の集中豪雨に見舞われ、都市計画の予想を越えた降水量のため名古屋市でもいたる所で道路、鉄道が冠水し、帰宅不能となつた人、車で帰宅途中に冠水した道路に突っ込みエンジン故障で難渋した人達が多く、これら被害は会員の中からも聞いております。また、それ以上に名古屋市北西部に隣接した地域では、川が氾濫し洪水被害が発生したことは、皆様報道でご存じのとおりです。

会員の住居被害は未だ耳にしておりませんが、被災会員がおられましたら紙面を借りて心からお見舞い申し上げます。

さて前号掲載以後の支部活動についてご報告します。

〔活動報告〕

○母校商船学科卒業式参列

同日午後佐藤新校長歓迎昼食会、引き続き本理事事・支部長会議出席

○役員会 一〇月六日

於 浜館 出席者一二名

〔議題〕①活動報告・連絡事項

②創基二〇周年記念行事に関する件(意見交換)

③若手会員の懇親会について

④その他：来年度役員改選について

○第一六回名鳥会懇親ゴルフコンペ

一〇月一四日 一六名参加 於・名古屋港ゴルフ倶楽部

このゴルフ場は名古屋港管理組合が名古屋港富浜に造った一八ホールの本格的ゴルフ場で一〇月一日にオープンしたばかりです。

プレー終了後は同窓会の情報を伝え、また会員の情報交換などを行い、大いに親睦を深めた一日でした。

猛暑の夏が過ぎ、ようやく秋めいて参りましたが、暦のうえでは立冬を過ぎても気温は二〇度を超える日があり、地球の温暖化が気にかかるこの頃でございます。

成績は次のとおりです。

	氏名	OUT	IN	GROSS	H'CP	NET
優勝	小久保又五郎 (S38N)	41	44	85	18	67
2位	中尾 幸治 (S37N)	50	48	98	25	73
3位	斉藤 牧 (S48E)	54	50	104	30	74

最後に、皆様にとりまして来年こそ良い年でありませうようお祈り申し上げます。

以上

四日市支部

支部長 片山 勝則

中、国の政治も今ひとつ先行き不透明で、各種世論調査では内閣支持率は最低となり、国民のいらは募るばかりであります。

さて、四日市支部では、さる八月四日、市内のシティホテルで第三八回支部総会を開催しました。

例によって五回目となる母校カッター巡航の皆様をお迎えして、天野先生はじめ鳥羽丸の先生方、学生の皆さんと同窓諸兄で総勢九〇名を超え、大変賑やかにまた有意義な総会でありました。

翌八月五日は恒例となりました学生さんのホームステイが行われ、八月六日の港まつりカッター大会では、母校カッター部のチームが参加一〇七チームと大変な競争の中で見事優勝の栄冠を勝ち取りました。

第一回目のカッター巡航の時には、飯島校長も参加された教官チームが特別賞を受賞されましたが、学生チームの優勝は今回が初めてで、鳥羽商船の真髓と心意気がようやく発揮されたところであります。

翻って、支部の近況と致しましては、昨年の四日市港開港百周年記念行事では、支部の若い同窓もいろいろ活躍しましたが、今年はまだ本来の業務で頑張っています。

特筆すべきは六万トンクラスの大形コンテナ船の四日市港入港です。念願の北米航路で、週一便寄港により当地域の北米向け貨物の輸送コスト削減に大きく貢献し

ています。この大型コンテナ船の誘致に当たっては、航路整備から海上保安部・水先人会との調整あるいは船社対応等々、我が同窓の活躍大なるところであり、四日市港のコンテナステータスが一段と向上しました。

また、四日市港の対岸の中部国際空港建設工事につきましても、工事作業船の航行、係留場所及び台風時の避泊地等について、適切な対応が進められており、関係者から評価されています。

今後は、中部国際空港の二〇〇五年三月の開港時には、四日市から空港への海上アクセスを是非とも実現しなければなりません。ここでも我々鳥羽商船の英知と活力が求められており、母校の先生方にもご協力をお願いしたいと考えています。

おわりに、来年の母校創基二〇周年にも、四日市支部から出るだけ多く参加するよう、来る一月三〇日支部役員会をもって協議する予定です。

記念行事の具体的内容等が決まりましたら連絡方、よろしくお願ひします。

以上

大阪支部

支部長 菅原 昌男

六月の総会と同日に支部総会を開催して以降、特に活動はありま

せんが、年末には幹事会を拡大して忘年会を開催する予定です。大阪港には、練習船日本丸が一月一六日から二二日まで入港し、後輩たちが元気に訓練をしておりました。

来年も支部活動に御協力お願い致します。

神戸支部

支部長 桑嶋 收平

今年格別の暑さの続いた夏も終わり、秋の深まりとともに早や年末の声も聞こえてまいります。世の不況感も特に抜け出たような実感が湧いてこない状態が継続しております。海運界も相変わらず、外航船乗組員に対する政策も抜本的な改善もなされないまま、更に内航船の乗組員さえ、外国船員が見受けられる時代に何ともやるせない気持ちです。

九月に縁があつて志摩で約一カ月程、光ファイバー線海底敷設工事の実態を直接経験できました。

NTT/KDD等が競って大容量の海底ケーブルを敷設するのに、全部が外国籍船で、残念ながら日本船はこの世界では最近就航したNYKのハヤトの唯一隻。しかもそれさえも外国会社の備船に出さざるを得ない状況には、政策と技術の遅れが相乗しているかんともしがたい現状に歯がゆい思いです。

さて去る六月二六日に行われた

本部総会のまとめと致しまして、同窓会皆様のご協力に深く感謝いたしますとともに、以下を皆様のご記憶に留めて置いてください。

一、舞子ビラ使用については長谷川好道、齊藤三雄両氏にご尽力頂きました。

二、運営には大阪支部の全面的なバックアップを頂き心強い限りでした。

三、アトラクションに交渉と実行については、飯山嘉昭様に大変お世話になりました。

四、有馬太鼓は梅村伸雄様に非常にお世話を掛けました。

五、滝川二高吹奏楽部は再度別途に校歌(新旧)を演奏の上、録音して本同窓会に記念として寄贈していただきました。本郷、西谷両先生の御尽力に深く感謝いたします。

六、各自クラス会を神戸で開催を計画していただき、参加人員確保に大変ご協力いただきました。表には現れない皆様のお気持ちに心から嬉しく思います。

七、最後に世話人一同微力ながら、総会成功に寄与できた事を喜んでおります。

以上本当に有難うございました。

神鳥会ゴルフコンペ報告

本年打ち止めコンペは一月七日(火)快晴の中、兵庫CCで開催。(参加者一五名)小林公男さんが45

45で見事優勝、プレー後の懇親会は和氣満々長時間に渡って楽しい時間となりました。

尚、神鳥会の新しい会長及び幹事交替は下記のように決まりました。

名誉会長は高山逸次さん、会長に稲葉三千夫さん、幹事に拙弘さん(S37N)、又大塩重夫さんの長年の幹事は本当にご苦労様でした。当会も同窓生であればどなたでも参加出来ますので、若手の会員もぜひ連絡ください。

といくらゴルフコンペ

一〇月二六日(木)に旭国際東條CCにて参加者二六名で競技開催。優勝は広島商船S31年卒国本様でした。今回は鳥羽が当番幹事となり、参加者下記の通りでした。

青木孝之 稲葉三千夫 江頭昭雄 東山暢仍 長谷川好道 佐藤紀雄 中整正光の七名、来年には新年会も予定しております。

間もなく新年を迎えます。二〇〇一年は新たな世紀の始まりです。一〇月二六日の新聞によれば、東京商船と東京水産の両単科大学も統合に向けた検討に着手とあります。吾が母校もどのような荒波にもまれるのか他人事では済まされぬ時代が迫ってきております。

同窓の皆様協力、理解がさらに必要な時もあるかと思えます。そして何とか視界の見える海洋に出たいと願っております。

皆様是非 良いお年をお迎えください。 敬具

九州支部

支部長 和田 道夫

九州支部の同窓会は、毎年一月始め又は半ばに開催しておりますが、今年は都合により一月二五日になりました。

会場は、大分県天ヶ瀬温泉の久寿屋ホテルで行われることになっております。当支部会員は現在二三名で、高齢の方も多くなり、ご病気や健康的な問題もあつて、同窓会に出席される役員も次第に少なくなつてきております。又現役で勤務中の方も多くおられますので、同窓会に参加される人数は五名から七、八名位であります。今回は七名の方が出席されます。

次に支部長の交代について。

私は、大先輩の故福水芳雄氏(T4N)から本部の了解済みなので支部長をやってくれと言われ、昭和五八年以来今日に至つておりますが、年齢も重み健康にも少々不安がありますので、今期を以て交代したいと思つております。こんどの同窓会に計る予定であります。

私以上

伊勢志摩支部

前会報(二〇〇〇年第一号)の学校だよりの新任教官でお知らせしたように、本年四月に母校教官(鳥羽丸一等航海士)としてS48N卒の鈴木秀司氏が就任されました。その歓迎会を一月二日(木)一八時から、伊勢の懐石料理店「花菖蒲」で開催し、落合会長と母校出身教職員六名で祝福しました。

落合会長から鈴木教官に対し、母校就任の祝辞と共に歓迎会がご自身の療養の為に半年遅れたことに対するお詫びの言葉、更に教官として後輩の教育に対する助言が述べられ、鈴木教官の返礼と決意の言葉に続いてビールで乾杯、会食となりました。

鈴木教官歓迎会 (於 花菖蒲)



鈴木教官歓迎会 (於 花菖蒲)

鈴木教官は、昭和五六年四月から二年間、派遣教官として母校に赴任している為、学校の様子もよく解つていて、今後の学生指導は無論のこと、同窓会本部事務局にとつても重要な力となりました。今後の活躍を期待しつつ、約二時間後散会しました。

クラス会

五八期生クラス会

S16E 山本 勇

平成一〇年度は今高君の幹事で彦根にてクラス会が行われて、今回は山本の番だ、と幹事を受けるが、妻の入退院で病状芳しからず、一年越しの平成一二年一〇月六日鳥羽駅午後一時集合と連絡をとり、当日開催いたしました。

出席者は前日急な欠席者もあり、九名でした。

出席者は、

N科 室谷君、田中君、荒川君、佐藤君

E科 秋山君、今高君、尾崎君、山下君、山本

田中君と秋山君の自家用車に分離し、先ず母校を訪ね、商船学校

の創始者近藤翁と同窓戦没者慰霊碑に額すき、記念館内の同窓戦没者銘板を拝礼、航海科・機関科のクラスメートをひとり一人指差しながら、共に学び生活した友の顔を思い浮かべ、しばしの時を語り合いながら在学当時を偲び、母校を後に朝熊山に登りました。

展望台で母校を眼下に伊勢湾を眺め休息、尾崎君や秋山君の発言でクラスメート物故者の冥福を祈り、追悼法要を今から金剛証寺でお願ひしてみようと金剛証寺で院に申し込み手続をする。

昭和一六年卒同級生物故者霊と霊板を佛前に立て、懇ろな説経の内に皆が焼香をさせていただきました。

そして法話を聴聞するに、現代世相の乱れ、意気地なさ、私達戦中戦後に語り尽さない苦勞をした者として、誠に心寒く、日本の将来、日本人としてあるべき姿を語り共感共鳴、法主も声を一段と高め、一命を祖国に捧げた尊い戦没者を慰め、この物故者霊板は五十年間はお守りさせていただきますと心に染みる法要を済ませました。

時刻も四時三〇分を過ぎ、坂手海岸の「ニュー美しま」の宿へと朝熊山を下し投宿しました。

宿の浴敷から眺める鳥羽の夜景も素晴らしく、つきぬ昔話に寝も盛り上がり時の経つのも忘れ、来年の母校の創立一二〇周年記念式典に再会を約し、この宿を予約し、一夜を楽しみました。

学校だより

(平成一二年七月〜十一月)

◎体育大会

○第三八回東海地区国立高等専門学校体育大会は、陸上競技が七月一日(土)〜二日(日)、その他の競技が七月八日(土)〜九日(日)、ラグビーが十一月二日(日)、種目別に各地で開催され、次の上位成績を取ることができました。

- 男子走高跳 二位 M3 岡野 泰之
- 男子走幅跳 二位 M3 岡野 泰之
- 男子砲丸投 一位 I5 濱口 隆帆
- 男子円盤投 二位 I4 井上 則男
- 男子やり投 一位 I5 山本 学勤
- 女子八〇〇m 一位 M4 曾我 若菜
- 女子砲丸投 二位 M4 曾我 若菜
- 空手 二位 M4 曾我 若菜
- 団体・型 二位
- 水泳
 - 女子一〇〇m自由型 二位 S3 海保 明美
 - 女子一〇〇m平泳ぎ

女子五〇m バタフライ 二位 S3 荒木 志帆

女子五〇m 背泳ぎ 二位 S3 海保 明美

女子五〇m 背泳ぎ 二位 S3 荒木 志帆

○第三五回全国高等専門学校体育大会が、八月五日(土)〜八日(火)に北海道で開催され、先の東海地区大会で好成績をあげた。

- M3 岡野泰之、 I5 浜口隆帆
 - I5 山本学勤、 M4 曾我若菜
- の四名が出場し、男子やり投の I5 山本学勤が七位入賞となりました。
- なお、この四名と、第五回国民体育大会のヨット・女子シーホッパー S R 級に出場した、S3 渡辺奈緒に対し、落合同窓会会長から各々に金五千円の褒賞が授与されました。また、S3 渡辺奈緒は二年連続団体出場で、佐藤校長から特別表彰されました。
- 第三五回全国商船高専漕艇大会が、七月二日(木)〜二日(金)に本校担当で、ヨットは津ヨットハーバー、カッターは二見浦海岸で開催されました。
- ヨットは、総合四位と奮いませんでしたが、カッターは A・B 両

チーム共に二位となりました。○東海高等学校総合体育大会が、七月二日(金)〜三日(日)に開催され、先の三重県選手権水泳競技大会(六月二四〜二五日)で好成績をあげた。

- S3 佐々木 健(二〇〇m平泳)
 - M2 松山 晃大(二〇〇m背泳)
- が出場しましたが、惜しくも予選落ちとなりました。

◎カッター巡航

四日市港管理組合の絶大なご支援を受ける、五回目のカッター巡航が、八月四日(金)〜七日(月)にかけて、「鳥羽丸」を母船として実施されました。

本行事は、「四日市みなと祭」の協賛事業としても行われるもので、参加学生三三名にとつて意義深い体験になると共に、鳥羽丸一般公開・体験航海・ロープワーク教室等を通して、多に学校 P R と海事思想普及に貢献できました。

四日市の主な行事は、次のとおりです。

- 八月四日(金)
 - 午前一時半、カッター二艇が出港後、鳥羽丸が曳船して午後四時半、あさまⅡと共に四日市入港。
 - 午後六時から、鳥羽商船同窓会四日市支部総会パーティに学生三三名と参加教職員全員が招待され、料理と歌で親睦を深めた。
 - 八月五日(土)
 - 午前九時から管理港組合 O B の

案内で、国際物流センターと中部コルレセンターを見学。午後一時から、鳥羽丸一般公開とロープワーク教室、カッター大会の準備に学生が従事。午後五時から、学生全員が次回の四日市近郊同窓会自宅にホームステイさせていただいた。

八月六日(日) 午前九時から、カッターレース大会参加と支援、鳥羽丸一般公開。本校男子学生 A チームは、カッターレースで見事優勝。百チームを超える参加者に鳥羽商船の名を高らした。

鳥羽丸は午前一時半と午後一時の二回、約一時間の港外への体験航海を実施。一般公開の見学者数は、二回の体験航海乗船者一五〇名を含め、約五〇〇名となった。午後六時より、お世話になった O B への返礼として、鳥羽丸主催パーティを教室で実施。

八月七日(日) 午前九時、鳥羽丸はカッター二艇を曳航して、あさまⅡと共に帰途につく。

本年も、四日市支部会員に厚いもてなしを受けたことに対し、心からお礼申し上げます。また、卒業生の関係する四日市海技専門協議会(S37 N 石垣氏)・協同海運(株)(H10 E 堀内氏)は、はじめ杉野明弘氏(H9 N 杉野隆徳氏の父)や H6 N 相良球一氏・高橋直樹氏・H7 N 泉智笑子氏から、酒、ビール、ジュース・果物等を多数贈呈

昼夜働き続けるエンジン(機関運転)...

一月二十八日(土) 体験航海...

最終日の鳥羽丸による鳥羽湾クルージングの後、船内教室で船機...

長、一航一機が参加者と懇談しましたが、海と船に関心の強い参加者故に、楽しい質問が沢山出て、本行事の意義を大いに感じました。

なお、本年度は続いて、次の公開講座を予定しています。

○コンピュータ・メカトロニクス入門。

一月二十五日(土)から毎土曜日五日間、技術者四名を対象にM・I科教官が担当。

○健康づくりとキンボール体験

一月三日(日)、一般社会人四名対象に保健・体育の上演教官と本校学生三人が担当。

○中学英語のまとめ

二月二十五日(月)・二十七日(水)、中学三年生二〇名を対象に、田中豊穣・橋爪教官が担当。

○各種コンテストへの挑戦

○ソーター&人力ボートレース全日本選手権大会二〇〇〇

八月二十五日(金)・二十七日(日)、浜名湖競艇場に於て開催され、S科伊藤政光・渡辺河教官引率で、S4学生三名が参加、人力艇クラスB(排水量型)のショートレースで参加...

三艇中五位となりました。また、正式競技でないものの、

カナダ製サーフバイクを用いる水上自転車レースでは、平瀬利明君が見事優勝しました。

○ホンダエコノパワー燃費競技中部地区大会

九月三日(日)、岡崎市キョウセイドライバースクールで行われ、I科江崎教官指導のM3・I2の学生六名が参加、本校エコラン部製作マシンは昨年の記録を倍近く更新し、高専・短大部門に於て見事優勝しました。

○昭和シェル・CGマイレージマラソン

一月二十八日(土)・二十九日(日)、鈴鹿サーキット東コースで行われ、I科江崎教官指導の本校エコラン同好会の二チーム(M3・I2の学生六名)共に見事完走しました。

本競技は、本年が最後の開催となりましたが、一週約二・二kmのコースを八週し、ガソリンの消費量を競うもので、総エントリー台数五〇一台、ジュニアクラス一五一台中、完走八二台という過酷なサバイバルレースです。

○全国高専第一回プログラムコンテスト

一月四日(土)・五日(日)、津市メッセウイングみえで行われ、I科出江教官指導のI5・I4・I2の学生七名は、コンテンツ・競技両部門に出場しましたが、惜しくも予選落ちとなりました。

本模様は、NHK総合で十一月九日(木)七時四十分から、又、NHK教育で十一月十一日(土)三時三十分から放映されました。

○アイデア対決・全国高専ロボコン二〇〇〇年東海・北陸地区大会

十一月五日(日)、富山県新湊市総合体育館で、一〇高専、二〇チームが参加して開催され、M科八戸教官指導の「よしき君参号機(M2・M1学生七名)」とI科永野・携上教官指導の「四次郎二〇〇〇」(I4・M1学生五名)の二チームは、残念ながら相手の得点を上回ることができず全国大会出場を失しました。

○編入学試験

平成一三年度編入学試験は、八月一八日(金)に本校で実施され、M科四年に愛知県立瀬戸高等学校・普通科卒の東條祐作君が合格しました。

○卒業式

九月二〇日(木)、第二九回商船学科卒業証書授与式が挙行され、航海コース一九名、機関コース四名の純白の制服に身を包んだ卒業生は、佐藤校長から卒業証書を一人一人手渡され、なつかしい学舎を後にしました。

校長からは「来年創立二二〇周年を迎える本校の卒業生として、長い栄ある伝統の一端を担っていることに誇りと自覚と責任を持つて活躍して欲しい。」との告辞が述べられました。

式終了後、第一体育館に於て、卒業祝いパーティが行われ、鳥羽市長をはじめとする来賓・多数の保護者・同窓会役員・教職員がシヤンペンで卒業生の門出を祝福しました。

述べられました。

○クラインキャンパス活動

九月一三日(木)、午後二時半から教職員・学生全員で約二時間、校内の除草作業と空き缶・空瓶・ゴミ等の回収作業を実施しました。

又、翌日は、落合同窓会長が手配した杉の木園による近藤真琴翁碑周辺の除草作業が行われ、S科卒業式に備えました。

○講演会

十一月一〇日(金)、秋季講演会として四日市大学・コンピュータセンター長の田中正興教授に「これからの情報技術」の講演をしていただきました。IT革命の進む情報化社会にあつて、コンピュータ+ネットワークのむたらす光と影(故障誤動作・コンピュータ犯罪・プライバシー侵害)について、実例をもとに全学生に判り易く説明していただきました。

○進学説明会

九月二三日(土)・二四日(日)、中学校生徒・先生・保護者を対象に来年度入試のための進学説明会が実施され、両日で県外九校・県内四三校の生徒一九四名、先生三五名、保護者三七名、計二六六名が来校しました。午前中は学校全体説明を行い、午後は志望学科別に、S科は鳥羽丸での鳥羽湾体験航海(両日で生徒二二名・先生四名・保護者三名乗船)を行い、M・I科は実験演習公開としてロボット・インタラクティブ・ネット・熱流体力学・電気・画像ストリーム関係の演習を行いました。

来校者数は、昨年の八割と、二年連続二割減で少子化の影響が加速している上に、S科の志望者が昨年の四割であつたのは問題です。

○攻玉社高等学校の来校

十一月一〇日(金)、姉妹校・攻玉社高等学校の一年生二三八名が教員一〇名に引率され、関西方面への修学旅行の途次来校し、校附近近藤真琴先生の偉業を偲ぶため、近藤翁碑と百周年記念資料館を見学していただきました。

○海学祭

十一月一八日(土)・一九日(日)、第三五回海学祭が快晴の下、開催されました。

今年のテーマは、「一致団結商船魂」で、鳥羽丸体験航海・実験室公開・献血協力・模擬店などの他、様々なイベント・アトラクションが催され、一年に一度のお祭りを学生・保護者・一般客・教職員が仲良く楽しみました。

献血については、毎年、海学祭の折り学生会が中心となって日本赤十字社に協力してきましたが、このたび献血に二〇年以上貢献した団体に贈られる「金色 有功章」を受章し、学生・教職員共々、誇りに思っています。

同窓会作品展は、昨年同様、次の作品が百周年記念資料館二階に展示されました。

○陶芸品
（壺・抹茶茶碗・湯飲み）三点

S 3 E 堤 好造氏
○瓢箪工芸品 八点

S 19 F 12 E 下村甚一郎氏
○写真（奈良シリーズ）二月堂・お水とり） 五点

3 27 E 森田幸平氏
訪れた約八〇名の観客は、作品鑑賞と同時に、資料館一・二階の展示品を見て、母校の歴史を厳粛に受けとめていかれました。

◎新任教官の就任
平成一二年九月一日付で次の教官が就任されました。

・北村一浩教官（M科助手）

一平成五年三月、東京商船大学商船学部船用制御工学科を卒業後、同大学院商船学研究所船用制御工

学専攻（修士課程）を経て、平成一二年三月、筑波大学大学院博士課程工学研究科物質工学専攻を修了。同年、工学博士（筑波大学）。
中村記

寄付金・同窓会会費納入一覧

自 平成十二年 七月十六日
至 平成十二年十一月十七日

寄付金

一般寄付金

S 23 N 坂本 寛 八、〇〇〇円

新入会員入会金 会費（二年分）

航海科

一九名 九五、〇〇〇円

機関科

一四名 七〇、〇〇〇円

合計

三三名 一六五、〇〇〇円

会費

航海科

二四、〇〇〇円

S 50 三名 六〇、〇〇〇円